2018 年 10 月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Cotmehê 2018’ê

出典：パリ・クルド研究所

一般社団法人　日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê

議会選挙

‣燻る火種

選挙は、イラク新政府樹立に向けてクルディスタン民主党（KDP[1]）とクルディスタン愛国者連盟（PUK[2]）の実権を再確認するだけのものであった。そのために十分な選挙期間を取らず、半ば強行した形になった。集計が完了する前から、KDP と PUK の「与党連合」とゴラン（変化運動）他「野党連合」の対立が鮮明になっている。野党は選挙が正常に行われても、それほどの議席を獲得できなかったと思われるが、政府を主導する KDP を攻撃する格好の材料にしている。PUK は与党側でありながら選挙直後に結果を拒絶すると発表した後、撤回するといった珍事もあった。PUK は、KDP と協力せざるを得ない状況にありながらも、党内には KDP にいいようにされているという不満が強い 。

各地で報告された選挙違反の疑惑も野党による選挙への攻撃を助けている。クルディスタン地域選挙委員会は 3 日、425 件の選挙違反があったことを発表した[3 日、クルディスタン 24]。新鋭の少数野党

1 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。
2 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Niştmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。

である新世代は、KDP による選挙違反をやり玉にあげ選挙自体を拒絶する構えをみせた[1 日、ルダウ]。ゴランも新世代と共に、選挙の不正が糺されなけば選挙結果を拒絶するという[1 日、ルダウ]。ゴラン他 3 党は、選挙違反について連邦警察の介入を求める声明を発表した[9 日、ルダウ]。ゴラン所属のイラク議会議員は共同記者会見にて、投票に際して照会される身分証の記録が正しいものか確認するよう、中央政府に要求したとされる。

一方このような野党の動きに対して、KDP の元議員は野党が選挙結果を拒絶すればクルディスタン地域選挙法はにより、獲得議席は他党に配分されるだけと指摘した[2 日、ルダウ]。KDP として数議席しかない野党の動きは取るに足らないことなのだろう。

クルディスタン地域政府（KRG[3]）副首相クバッド・タラバニは、このように選挙結果を巡りクルディスタン地域に分裂の流れが生まれていることから、諸勢力に団結を訴えた[22 日、ルダウ]。PUK は与党連合に与するとはいえ、KDP とは潜在的に対立関係にある。KDP への不満の声を自らの側に取り込むことができなければ、KDP を補完する存在に成り下がるという危機感はある。

‣野党連合

ゴランを始めとする野党勢力は、不正選挙への追及を共通点として連帯感が生まれている。新世代指導者シャスワル・アブドゥルワリドは 11 日、クルディスタン・イスラム連盟(KIU[4])を訪問し連携強化を訴えた[11 日、NRT]。KIU 側は会談について両党の協力促進に成果があったと発言した。

KIU は 22 日、KRG に参加しないと発表した[22 日、ルダウ]。内政改革のために議会内外での闘争を続けていくとの方針である。少数政党とはいえ、党派を超えてクルディスタン地域のために協力することを拒否したことの意味は大きい。このような少数野党は KDP の支配を揺るがすためなら、地域外との勢力と協力することも辞さないだろう。そもそも KDP—PUK の両雄体制は歴史的に構築されたものではなかった。湾岸戦争においてイラク軍が敗北しクルディスタン地域上空に飛行禁止区域が設定されたことで、サダムに協力していたジャシュ[5]勢力が KDP、PUK に与したことが大きかったのである。今では武装闘争こそ考えにくいものの、政治的には以前の状況に戻るということも考えられる。

3　英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：クルディスタン地域政府大統領府公式サイト
4　クルディスタン・イスラム連盟の英語 Kurdistan Islam Union の略。クルド語では、Yekgirtûya(連盟) Îslamiya Kurdistanê。
5　直訳するとクルド語で「ロバ」だが、この場合裏切り者を意味する。

‣中央政治

5 月のイラク総選挙以来、長く進捗がなかった新政権樹立の流れが生まれてきた。シーアの有力政治家アンマル・ハキーム率いるシーア、スンニの党派からなる改革連合の代表団がクルディスタン地域を訪問した。先ずバルザニ率いる KDP 代表団が、ヘウレルにてハキームと会談を行った[14 日、ルダウ]。ハキーム率いる代表団は、クルディスタン地域とイラク中央政府との強調の重要性について強調し、クルディスタン地域に対する正当な措置について言及した。ハキームらはその後スレイマニを訪問した。PUK 指導部は 15 日、ハキームら代表団と会談を行った[15 日、ルダウ]。KDP との会談同様ハキームはクルディスタン地域との協調の重要性を訴えた。一方、PUK 側はキルクーク問題他について憲法に基づいた措置を求めた。

PUK から分派民主主義と正義連合(CDJ[6])からイラク大統領に就任したバルハム・サリフは、新政権のイラク首相にアデル・アブドゥル・マフディを指名した[3 日、ロイター]。新内閣組閣に向けクルド勢力も動くことになった。PUK は、指導部に所属する二人を法相の候補者に指名した[21 日、ルダウ]。大臣職もまたイラクを構成する諸民族、勢力毎に配分される。

KDP はイラク第 4 党として中央政界に活路を求め、野党もそれと対峙する中央勢力を頼る。クルディスタン地域はイラク国家からの独立ではなく、各勢力がそれぞれの思惑による共存を求めるという構図が生まれている。

キルクーク問題

‣占領 1 周年

人民動員軍がキルクーク近郊での小競り合いから、キルクーク侵攻に踏み切ってから1年が経つ。サドルは、キルクーク占領1周年を前にクルド人政治家に対し団結を呼びかけた[15 日、ルダウ]。新政権樹立のためにはクルド人の協力が必要であることから、キルクーク問題でクルド人を刺激することを避けた。KDP のペシュメルガが人民動員軍を食い止めたピルデでは、未だに両群睨み合いの緊張が続いている[20 日、ルダウ]。

キルクーク地方政府関係者によると、アメリカによる対イラン制裁再開でイランへのキルクーク産原油輸出がもはやできなくなった[29 日、ルダウ]。昨年のキルクークでの衝突はイラク正規軍や警察ではなく、イランの影響下にある人民動員軍が引き起こした。もはや衝突が収拾不可能になったところで、イラ

6　英語名、Doalition of Democracy and Justice の略。クルド語名は、Koalîsyona(Coalition：連合) Demokrasî û Edaletê(公正)。

ク中央政府も軍や警察を派遣せざるを得なくなった。キルクーク占領はイランが引き起こしたものといっても過言はない。占領1周年を迎えイランの目論見は思わぬ形で妨害を受けることになった。

ISの脅威

ISによるテロ、襲撃はクルド人のみならず全キルクーク市民を恐怖に陥れている。イラク連邦警察やイラン支援下の民兵集団人民動員軍の治安維持に全く無能であり、占領から1年も経つのに治安回復どころか状況は悪化の一途を辿る。3日、キルクーク市内で路肩爆弾が爆発し2人が負傷した[3日、イラクニュース]。11日、キルクーク中心部で爆発があり6人の死傷者が出た[11日、イラクニュース]。13日も、市内で自動車爆弾が爆発し市民に犠牲が出た[13日、ルダウ]。イラク国防省はツイッターで、6人の負傷者を「軽微」な被害状況だと発言した。

クルド側はイラク当局の無能ぶりをキルクークの実権奪還に利用しようとしている。PUKはキルクーク知事を決めるための選挙を実施するか、それが無理なら中央政府に指名させるべく動いている[8日、ルダウ]。または中央政府に対して地元警察の管轄権の譲渡を要求した[29日、ルダウ]。

アラブ化

キルクークでは不意打ちにより支配者の座に返り咲いたアラブ人による公式・非公式の他民族への抑圧が続く。著名なクルド人詩人の銅像が何者かに一部を破壊されるという事件が起きた[22日、バスニュース]。下手人やその背後については明らかになっていない。

このようなクルド人のシンボルに対する侮辱は民族性への攻撃という点で見過ごせないが、より差し迫った脅威がある。アラブ人入植者によるクルド人の住民の土地の略取である。キルクーク市近郊の

ダクークでは、クルド住民が中央政府の後押しを受けたアラブ人入植者に対する不安の声を上げている[22 日、ルダウ]。かつてサダム・フセインは、反抗的なイラク南部のシーア住民をキルクークに入植するアラブ化政策を行っていた。人民動員軍による占領後、中央政府に指名されたスンニの知事は、このようなクルド人追放政策を再開するのではないかと見られている。

トルコの侵略行為

▸国際法違反の越境作戦

トルコは、引き続きクルディスタン労働者党（PKK[7]）を掃討すると称し、イラク領内に不法に軍を展開し続けている。PKK の軍事部門は、バルザンで 5 名のトルコ兵の殺害を発表する等抵抗を続けている[22 日、日報]。ヘウレルにおける中東フォーラムに登壇したトルコの駐イラク大使は、イラク政府がトルコの対 PKK 作戦に協力することを望むと発言した[24 日、ルダウ]。イラク中央政府は、PKK を KDP を牽制するための人民動員軍の一部と見ている。トルコの越境はシーア・アラブ民衆の間でも明白な「侵略」だとして大きな怒りを招いている。イラクとの対 PKK 共同戦線はエルドアンの願望のみで終わる。

▸エジーディ（ヤジーディ）による主権回復

イラク中央政府と人民動員軍が、IS から奪還したエジーディの集落の管轄権を現地勢力に引き渡す動きが続いた。エジーディの自治評議会は 16 日、シェンガル近郊の村の管理権がイラク当局からエジーディに引き渡されたと発表した[17 日、ユーフラテスニュース]。エジーディの自衛部隊であるシェンガル抵抗隊（YBŞ[8]）は 23 日、新たに別の村において人民動員軍の占領状態が終わり、エジーディの自治が回復したと発表した[24 日、ユーフラテスニュース]。KDP 支配下の地域においても、KDP と中央政府との交渉により IS 侵攻以前に地域を統治していたエジーディの市長が復帰することになった[29 日、ルダウ]。

国連関係者と人権団体活動家が 30 日、2014 年に IS の虐殺に見舞われたシェンガルの村を訪問した[30 日、日報]。訪問団はクルド系メディアの取材に対し、破壊と虐殺からの回復は順調に進んでるとの認識を示した。

7 クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。
8 シェンガル抵抗隊のクルド語 Yekîneyên(兵士たち、部隊) Berxwedana(抵抗) Şengal の略。

ロジャバ（西クルディスタン、北シリア）

Rojavayê Kurdistanê

イドリブ解放

‣見せかけの停戦

トルコはヌスラ含む反体制派勢力の最大のスポンサーとして、反体制派勢力を説得し停戦を実現すると約束したことでロシア、イランに停戦を認めさせた。トルコの国家情報機構（MİT[9]）が中心となりヌスラを含む反政府勢力の説得にあたっている。テロ組織の非武装地帯から撤退がすんなりと進まない現状、トルコの力量は疑問視され始めている。トルコは、停戦は順調に進んでいるとアピールした[1 日、アナトリア通信]。協定では 15 日までに双方とも非武装地帯から重火器を撤去しなければいけなかった。ヌスラはその期限の 15 日に声明を発表し、非武装地帯から撤退する意思がないことを表明した[15 日、シリア人権監視団]。トルコは 8 月にヌスラをテロ組織に指定しており、彼らの動向は協定の範囲外と強弁することは可能だ。プーチンは、ヴァルダイ・クラブでのカンファレンスにてトルコに謝辞を述べつつも、未だ重火器が撤去されていないことを指摘した[18 日、アナトリア通信]。

アサドは、イドリブを巡る合意は一時的なものであるとの立場を崩していない[8 日、ミドルイーストアイ]。アサドは、停戦の崩壊をいまかと待ち構えている。非武装地帯外には大軍を集結させ、いつでもイドリブ解放作戦を開始できる態勢を整えている。

9　トルコ語名 Milli(国家・民族) İstihbarat(情報) Teşkilatı(組織)の略。

‣安田純平氏の解放

23 日、日本政府は 3 年以上もテロ組織に身柄を確保されていた日本人フリージャーナリストの安田純平氏が解放されたと発表した。[24 日、時事通信]真実に基づく議論ではなく、党派に基づく不毛な議論がなされている。重要なことは彼の解放の背後で動いた力である。当協会が、トルコ国内の情報筋に確認したところによると、テロリスト側は 10 億円の身代金を要求してきたという。シリア人権監視団は、カタールが 3 億円の身代金を支払ったと報じた[24 日、シリア人権監視団]。トルコにしろカタールにしろテロリストの言い値をそのまま支払ったとは考えにくいが、テロリストは金銭以外にもトルコ国内での安全な居住権も求めたと考えられる。当協会は、北シリア連邦を指導する民主統一党(PYD[10])にも安田氏を巡る一連の流れについて情報を確認した。PYD 関係者は、安田氏の解放について事前の確認された情報はなく青天の霹靂だと語っていた。

しかし、何故今になって安否不明の安田氏解放に向けてトルコが動いたのか。エルドアンは、ヌスラ系のテロ組織が説得に応じず非武装地帯の実現に暗雲が立ち込めていたことに苛立っていた。エルドアンはプーチンとロウハニに対し、反体制派勢力への影響力を誇示することで、非武装地帯設置を条件にイドリブ攻勢を中断する合意を勝ち取った。エルドアンは直接影響下にある反体制派勢力は撤退に応じつつあったが、ヌスラ系テロ組織はトルコの目論見を意に介さない動きを見せていた。そこでどんな材料でもいいから、テロ組織を動かすところを見せる必要に迫られていたのだ。安田氏は格好の取引材料としてトルコに見いだされたのである。

日本からの経済的見返りを期待しての行動とも読み取れる。カタールの例もある。トルコは、カタールに対しサウジの国交断絶と経済封鎖の折に緊急援助を行い軍事基地まで置き大きな貸しを作った。カタールはその見返りにトルコへ巨額の直接投資を行い、豪華なジャンボジェットをエルドアン個人に寄贈した。安田氏の身代金をカタールが立替えたとも言われているが、エルドアンが財布代わりにしている現状において不思議はない。日本も今後何かしらの要求を受けるだろう。カタールと日本のトルコに対する力関係はとても比べ物にならない。とはいえ三菱重工が深入りする原発案件といった懸案事項もある。欧米政府機関、企業が退避する中で、日本だけが食い物にされないとは言い切れない。

安田氏は 3 年間幽閉されていたとはいえ、看守役のテロリストや他の囚人とのちょっとした会話から情報を蓄積することは可能だったはずだ。反体制派やアルカイダとトルコの関係について何らかの情報を公表してこそ、ジャーナリストとしての仕事を果たしたと言えるだろう。

10 民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

▸「イドリブ内戦」とウイグル人

トルコはイドリブにおける反体制派勢力の制御に苦慮しているが、その背景に「穏健派」勢力が野合した国民解放戦線とヌスラとの対立がある。双方の武力衝突、暗殺合戦が続いている。下旬に非武装地帯内で双方に属する勢力が衝突する事態が発生した[24 日、シリア人権監視団]。4 月以来暗殺されたヌスラ系の指揮官、教師他関係者の数は 352 人に達しているとされる[13 日、シリア人権監視団]。シリア全土の大半を占めるアサド政権支配地域、クルド人支配地域が安定していることを考えると、シリア内戦はもはやイドリブ内戦と言っても過言ではない。その混乱にさらに拍車をかけているのが、エルドアンによるトルコ系ウイグル人勢力の重用だ。トルコはウイグル人を戦略的地点に配置しその他重要な作戦には彼らを優先して投入しているという[13 日、シリア人権監視団]。安田氏の身柄が引き渡されたのはトルコ系の勢力であったという情報にはこのような背景がある。ウイグル人勢力はかつては現地人との軋轢を避けるため交流を避けていたが、最近では現地人居住地でのプレゼンスを強め現地人から略奪した物資を売りさばくといった「貿易事業」も行っている。現地人のみならず反体制派勢力の中でもウイグル人に対する反感は強まっている。反体制派活動家によれば、ヌスラのウイグル人司令官も暗殺されるという事件も起きたとされる[21 日、アラブソース]。トルコの汎トルコ主義ないしトルコ系至上主義が露骨になる中、「イドリブ内戦」は新たな局面に入っている。

ジャジーラの嵐

▸IS の反撃

北シリア諸勢力の連合軍・シリア民主軍(SDF[11])による IS 掃討作戦「ジャジーラの嵐」は最終局面を迎えている。IS もやすやすと降伏するようなことはなく戦闘は激化している。ユーフラテス川沿岸のハジンを巡る戦闘では IS の自動車爆弾戦術に苦しめられ、300 名の「特殊部隊」を同地へ派遣したと報じられた[29 日、ルダウ]。

IS は通常の戦闘における抵抗だけではなく、SDF の協力者に対する報復テロも行っているとされる[9 日、シリア人権監視団]。SDF を間接的に困らせようとする IS らしい姑息なやり方ではある。戦闘の大勢に影響を与えることはないとはいえ、民間人の被害が増加していることは見逃せない。

11 シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwāt(部隊) Sūriyā(シリア) al-Dīmuqrāṭiya(民主的)の略 QSD をよく用いる。またクルド語では Hêzên(戦士たち、すなわち軍の意) Sûriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSD と呼ばれる。

ISとの取引疑惑

シリア南部のスワイダはデリゾールと同様ISの最後の拠点の一つである。アサド政権勢力による攻勢によりISは追い詰められている。ISはエジーディ同様多くの少数派ドルーズの人々を人質にしている。SDFは8月にISによる虐殺の危機に瀕するドルーズの人質達とISの捕虜を交換すると申し出た。クルド人支配地域から遠く離れたスワイダの人質に関与したのは、SDFのIS掃討の目的の一つである未だ行方不明のエジーディの人質の解放に先鞭をつけるため、同様の境遇にある少数派を助けたことがある。もう一つ切迫した事情もある。SDFは900名もの外国人戦闘員を捕虜にしておりその対応に苦慮している[11日、デイリーメール]。シリア国籍保持者であればともかく、外国籍保持者はテロリストとはいえ対応を誤れば外交問題になりかねない。そういったことから人質との交換は体よく捕虜を放出できるため重宝される。それがあらぬ疑いをかけられることにもつながる。人質解放と引き換えにISに便宜をはかっているのではないかとの邪推だ。SDF報道官キノ・ガブリエルは明確にこの疑惑を否定し、ISとの間にあり得る交渉は捕虜交換だけだと強調した[19日、ユーフラテスニュース]

クルド人はISと戦っていることから世界の支持を集める。そのためトルコはその印象を覆そうと情報戦を展開している。それが功を奏したのが、昨年のラッカ陥落時に出回ったフェイクニュースだ。BBCは昨年反体制派関係者の証言を鵜呑みにし、クルド人とISの取引という誤報を流した。

トルコの妨害

エルドアンは26日、一向に進まないマンビジュのアメリカ—トルコの共同占領に業を煮やし、ユーフラテス川東に侵攻する考えについて発言した[26日、「自由」紙]。トルコ軍は28日、コバニ近郊の国境地帯を砲撃した[28日、「自由」紙]。31日には、ギレスピ(タルアブヤド)も砲撃した[31日、ハワルニュース]。クルド側は同日、トルコの兵員輸送車を破壊する動画を公開した[31日、ユーフラテスニュース]。

SDF はトルコの侵略に対峙するため「ジャジーラの嵐」を一旦中断すると発表した[31 日、ユーフラテスニュース]。現実にトルコ軍がアメリカ軍が駐留するユーフラテス東地域に侵攻することは考えにくい。ただ SDF がトルコの攻撃を理由に IS 掃討作戦停止すれば、トルコは IS を助けたも同然となる。そこで SDF は政治的パフォーマンスとして今回の発表に踏み切ったのである。ただでさえ IS 支援が疑われるトルコはさらなる墓穴を掘ることになった。

アフリン

▸トルコによる生活破壊

トルコの傀儡勢力であるアフリン地域評議会は、クルド人農家が所有するオリーブの林を伐採することを可決した[8 日、シリア人権監視団]。表向きの理由はクルド人ゲリラの潜伏場所を一掃するというものだが、クルド人住民の経済基盤の破壊である。オリーブ生産の破壊は農業にとどまらない経済的打撃をクルド人に与える。アレッポ石鹸は日本も有名であるがアフリン産のオリーブを使われているものも多い。筆者はトルコの侵略以前にイラクのクルディスタン地域で「アフリン」と打刻されたアレッポ石鹸を数多く見た。生活基盤を失いクルド人が流浪した後アラブ人を入植することができるである。

▸クルド人の抵抗運動

人民防衛隊（YPG[12]）はトルコ軍の傭兵である反体制派戦闘員を奇襲することで抵抗運動を続ける。トルコ語シリア情報サイトは、アフリンへと続くアメリカのクルド勢力に対する補給路の図なるものを公開した[21 日、シリアの今日]。アメリカの補給路が何故かアサド政権支配地を通るという不可解な図であるが、トルコ政府がアフリンでのクルド人の抵抗運動にアメリカの関与を疑っているという意味で重要だ。

この図をもとにアフリンにおけるクルド人の抵抗運動について論じる場合、アメリカの支援よりもアサド政権の協力が重要なはずだがそのことには触れていない。

12 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

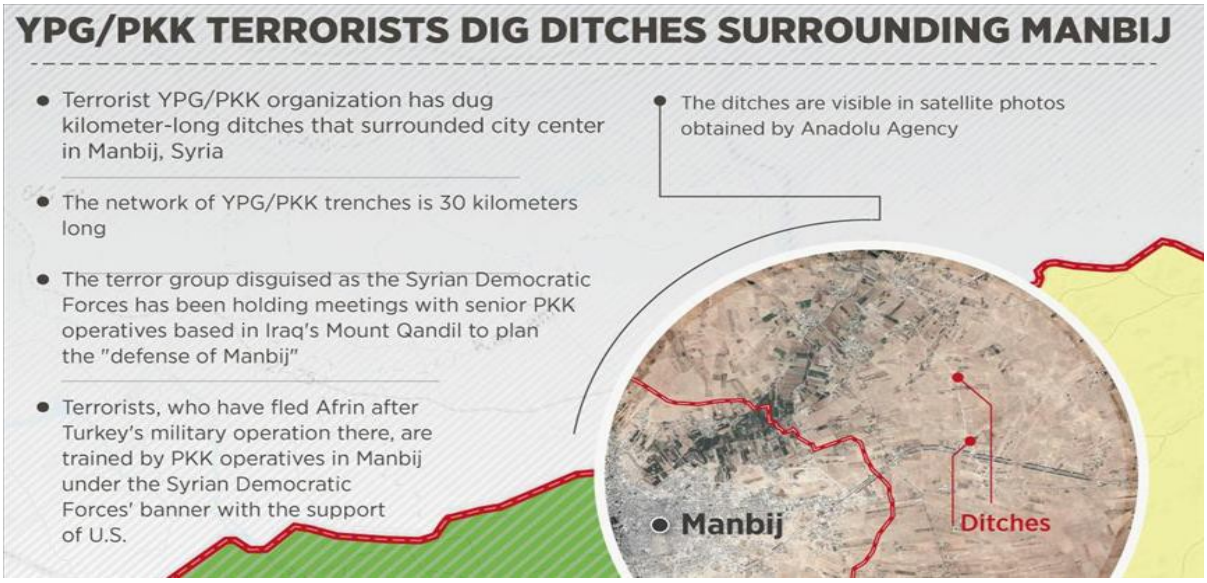
マンビジュ

▸警備活動

トルコ軍は相変わらずアメリカ軍の協力が得られない中警備活動と称するマンビジュの示威活動を続けている。YPG の指導下にあり現地人から成る自衛部隊のマンビジュ軍事委員会はアメリカ軍と共同でトルコの活動に対し警備活動を行っている。マンビジュ軍事委員会は 21 日、アメリカ軍兵士と共同行動を行う動画を公開した[21 日、マンビジュ軍事委員会]。翌日にはトルコ側勢力との境界線の川まで進出し偵察行動を行った[22 日、マンビジュ軍事委員会]。

▸塹壕問題

トルコ当局はマンビジュ近郊の航空写真を公開し YPG がトルコ軍に対する防衛陣地を築いていると批判した[5 日、アナトリア通信]。



マンビジュ軍事委員会司令官シェルワン・ダルビッシュは 9 日、トルコによる批判は誤りだと声明を発表した[11 日、クルディスタン 24]。同地に駐留するアメリカ軍将校も YPG が既に撤退したことに触れクルド側を擁護した。一方でマンビジュ合意の履行の必要性については再確認した。トルコが軍事的に威嚇する以上同地を防衛するマンビジュ軍事委員会が防衛力を強化するのは至極当然のことだ。アメリカは合意を履行する気はないのだが表面を取り繕う必要はある。そのためマンビジュ軍事委員会の行動を黙認しながらトルコの訴えを否定した。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê

ブランソン氏の解放

テロ組織に関係した疑いでトルコ当局に拘束されていたアメリカ人牧師のブランソン氏が解放された。トルコはブランソン氏を解放するが出国禁止令を下されるのではないかという憶測もあった[11 日、情況]。12 日ブランソン氏はついに釈放された[12 日、「自由」紙]。14 日にはアメリカに帰国しトランプと面会した[14 日、CNN]。

トランプがブランソン氏の解放を求めトルコに制裁を科しており、それがリラ下落につながったことから、今回の解放の背後には経済的な取引があったと多くの人が考えている。ブランソン氏の解放がほぼ確実になるとリラの対ドル交換レートは僅かであるが回復した[12 日、ロイター]。ただ双方ともこのような疑惑について否定している[14 日、「自由」紙]。経済的内容より気掛かりなのがクルド問題を巡る双方の取引だ。ブランソン氏の解放後、エルドアンが前述のユーフラテス川東への侵攻について表明し、合わせてトルコ軍はコバニ他へ砲撃した。クルド人は今回の解放の取引材料にクルド人が使われたのではないと考えている。アメリカはトルコのユーフラテス東への侵攻が虚勢と知りつつも、砲撃について黙認することで顔を立ててあげた。

クルド人への弾圧

▸クルド系政党への弾圧

クルド系政党人民民主党(HDP[13])の元共同代表セラハッティン・デミルタシュは、PKK との協力関係という冤罪により懲役判決が下された。不当な判決に対し裁判の差し戻しを要求している。自身にかけられた嫌疑である「テロ組織との関与」について確実な証言は全くないと弁明した[3 日、ユーフラテスニュース]。バルダン他逮捕された議員についても国家による罠だと発言した。

トルコ内務省は 9 日、クルディスタン各地で 158 人を PKK への関与で逮捕したと発表した[9 日、アナトリア通信]。その中には HDP のアメド代表もおり、対テロ作戦の名をかりたクルド人政治家への弾圧であることがわかる。HDP はこのように逆風が強まる中、20 日から来年の 3 月の地方選挙に向けた運動を開始するとしている[16 日、ユーフラテスニュース]。HDP 共同代表のテメリは、地方支部での会合で地方選挙をトルコ国家とクルド人との和平の機会だと意気込みを語った[30 日、ユーフラテスニュース]。一方のエルドアンはこの選挙を野党勢力一掃ためのいい機会だと捉えている。エルドアンは 22 日、地方選挙は CHP を壊滅させるいい機会だと放言した[22 日、「自由」紙]。エルドアンは CHP がクルド弾圧に甘いことを熟知しており、民主主義防衛のためとはいえクルド側と共闘することはないと踏んでいる。エルドアンは来る地方選挙で選ばれる地方知事に「テロの脅威」の疑いがあれば解任する方針だ[10 日、情況]。つまりクルド人が多数の地域でクルド人が知事に選ばれたら、「テロリスト」と共謀の恐れありとして選挙結果を認めないということである。

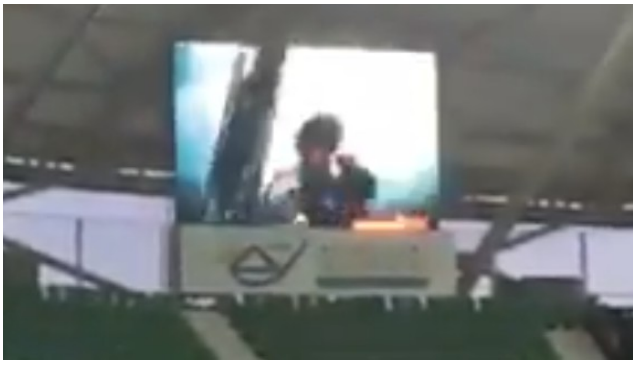
▸リジェ包囲

アメド(ディヤルバクル)近郊のリジェでは、これまでも PKK がトルコ国家によるクルド人弾圧への抵抗運動を行っており、トルコ軍部隊の拠点へ攻撃を行う映像が公開されてきた。そのリジェでトルコ当局によるクルド人村落の包囲作戦が行われ憲兵隊特殊部隊、警察特殊部隊が参加している[3 日、ユーフラテスニュース]。トルコは数多くの村を包囲し村民に外出禁止令と課しその村々への道路を全て封鎖し、さらに村の学校やモスクを作戦基地として接収した[7 日、ユーフラテスニュース]。さらに当局は村々に対し水道、電気の供給を止め家庭菜園を破壊するという暴挙に出ている[10 日、ユーフラテスニュース]。作戦の過程で多くの村民が免罪で拘束された。トルコでは、クルド人は法の保護適用対象外にあるとされ、対ゲリラ作戦の名をもってすれば令状無しの逮捕始め諸々の措置は正当化される。トルコ当局は、クルド村民に対し懲罰を加えれば PKK への支持を止めるというアタテュルク以来の考えに基づき人権侵害を続けている。

13 トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。Halk はアラビア語で人民を意味する halq に由来する。

‣クルド人への挑発

クルド人クラブとトルコ人クラブによるサッカーの試合前スタジアムのスクリーンにトルコ当局によるPKK 掃討作戦のプロパガンダ映像が映し出されるという事件が発生した[14 日、情況]。



映像が流れている最中「トルコのために死ぬ」という軍歌を歌う声が聞こえたという。

‣村落防衛隊の腐敗

トルコ国家は、クルド人の権利拡大要求に対して反動派のクルド人をぶつける政策をとってきたことはよく知られている。その主力部隊がトルコ国家が金で手懐けたクルド系部族の若者を集めて結成された「村落防衛隊」である。構成員はトルコ当局の威光を笠に着て、同胞に対する多くの人権侵害行為を重ねてきた。今月その村落防衛隊員が 635 人も解任される事態になった[12 日、「新たなる夜明け」紙]。村落防衛隊が展開する地域で PKK の攻撃が相次いだことで、情報機関が防衛隊員と PKK の協力関係を疑い解任に発展した。村落防衛隊のような有力なガイドが信用できないとなるとトルコ軍の PKK 掃討作戦にも大きな支障が出ることになりそうだ。

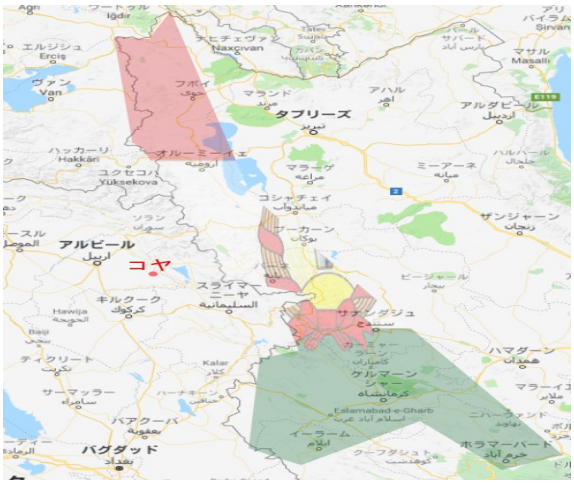
‣PKK の動向

PKK はトルコ当局と小競り合いを続る一方、情報戦における快挙を公開した。PKK は「秘密作戦」に従事していたトルコの情報機関関係者を捕らえその詳細を明らかにした[28 日、ユーフラテスニュース]。アメドにおける作戦中に PKK に捕らえらた。偽名のパスポートを用いトルコとイラクを往復しバルザニの KDP とも協力関係にあったとされる。

PKK は以前イラクのスレイマニでトルコの諜報部員を拘束しネットに晒すことでトルコ当局を恐慌状態に陥らせた。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojihilata Kurdistanê



イラン国民の怒りに連帯するクルド人

イラン大統領ハサン・ロウハニは 14 日、テヘラン大学で講演を行った。イラン反体制派によると、その際に一部の学生がロウハニへ抗議活動を行った[14 日、モジャヘディーネ・ハルク]。学生たちの抗議運動は各地域に広がり待遇改善を求める教師のストライキに発展した。

ケルマンシャー、サナンダジュ、マハーバード、ホッラマーバードといったクルド人都市にも波及した。クルド人の他にも多数の少数民族を抱えるイランにおいては、マハーバード共和国の失敗以来政権に不満を持つ他民族との協力が重要なカギとなってきた。

文責:一般社団法人日本クルド友好協会　研究員　並木宜史

翻訳協力:同上　事務局長　ワッカス・チョーラク